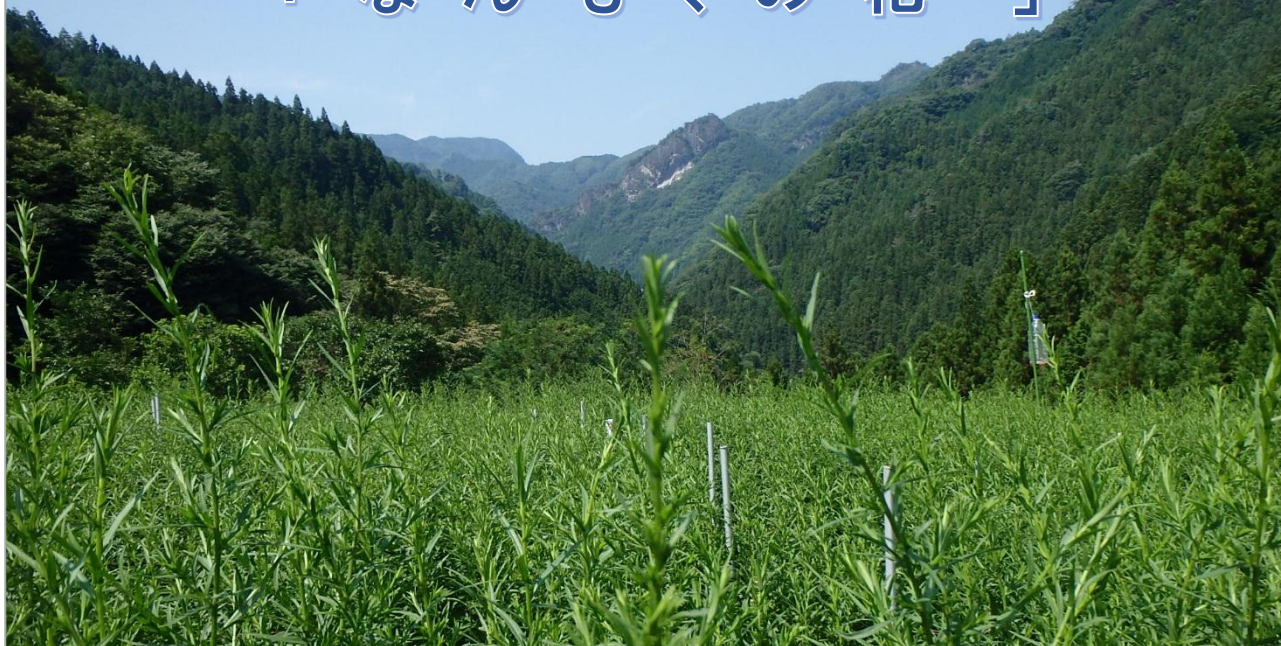


南牧村花卉生産組合花情報(平成 27 年 8 月)

「なんもくの花」



群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢 70 歳以上の 15 名が 50 種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。(上の写真は来月に出荷期を迎えるクジャクアスターです)

『秋の訪れ』

標高の高い南牧村では、平地より一足早く秋を感じることができます。ワレモコウは秋を感じさせる代表的な切り花であり、「なんもくの花」の主力商品です。今月から在来種の出荷が始まり、かぐや姫の出荷へと続きます。



『クジャクアスターの出荷間近！』

クジャクアスターも「なんもくの花」の秋の主力商品です。標高 500mの子母山(しぼやま)のほ場では来月上旬からの出荷に向けて元気に生育中です。青紫やピンク、白い孔雀達が羽ばたくのももうすぐです。



『農業祭』

南牧村では毎年、前期と後期に分けて農業祭が開催され、「なんもくの花」が数多く展示されます。今年は9月13日(日)に前期の農業祭が南牧村活性化センターを会場に開催されます。多くの皆さんに足を運んでいただいて、「なんもくの花」、そして南牧村を楽しんでいただきたいと思います。

